

# 新型インフルエンザ

## 1. 新型インフルエンザについて

2009年3月、メキシコにて始まった新型インフルエンザの流行は、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなど世界中の国々へ広まってきました。日本においては5月9日、カナダから帰国した高校生から最初の確定例が報告されて以降、5月16日には神戸市で集団感染がみられるなど瞬く間に全国に拡大し、徳島県では6月2日に1例目が検出されました。

「新型インフルエンザ」とは、今まで流行が見られたAソ連型(H1N1亜型)、A香港型(H3N2亜型)、B型などいわゆる「季節性インフルエンザ」とは抗原性が大きく異なり、人と人との間で容易に流行を起こすようになったインフルエンザを言います。抗原性が異なるためこれまでのワクチンは効果がありません。今まで流行したこともないため誰も免疫を持っておらず感染は急速に広まります。

また今回の新型インフルエンザもH1N1亜型ですが、Aソ連型とは異なります。今まで出現が恐れられてきた高病原性鳥インフルエンザ(H5N1亜型)変異による新型インフルエンザとも異なります。

感染経路は、感染した人の咳やくしゃみにより放出されたウイルスを吸い込むことにより感染(飛沫感染)し、ウイルスが付着した物に触れた手指を介しての感染(接触感染)も考えられます。

症状は季節性インフルエンザとほぼ同様に、急な発熱、咳、悪寒、咽頭痛、頭痛、下痢、腹痛等であり症状から季節性か新型かを見分けることは困難です。治療にはタミフルやリレンザが有効で、感染したほとんどの方は比較的軽症のまま数日で回復していますが、基礎疾患のある方などで重症化例も報告されています。



## 2. 新型インフルエンザ検査について

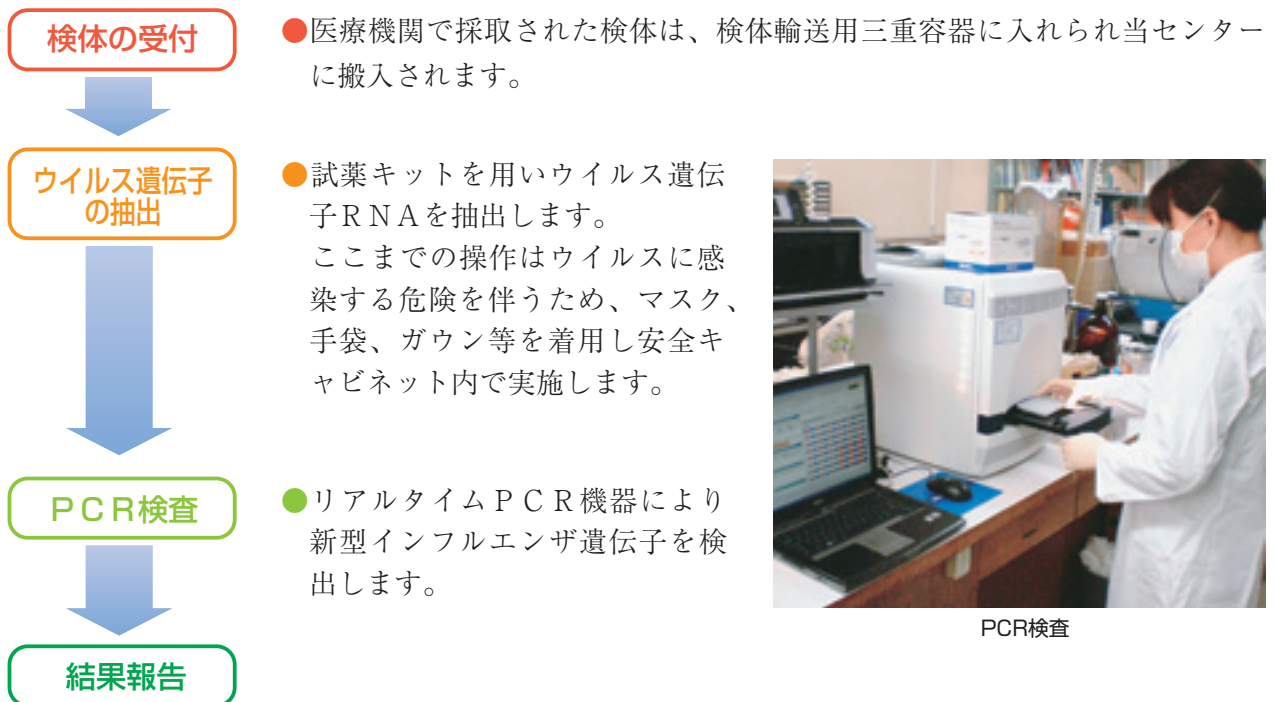
新型インフルエンザの検査方法には、患者さんの咽頭や鼻腔を拭った液から、遺伝子検査法またはウイルス分離法によりウイルスを検出する方法があります。遺伝子検査法とはウイルスから取り出した遺伝子をPCR法で何億倍にも増やして検出する方法であり、ウイルス分離法は生きた細胞や発育鶏卵で増殖させたウイルスを抗血清により新型インフルエンザと決定する方法です。

医療機関で広く用いられている迅速診断検査ではインフルエンザに感染しているかどうかは判りますが、季節性と新型インフルエンザを区別することは出来ません。



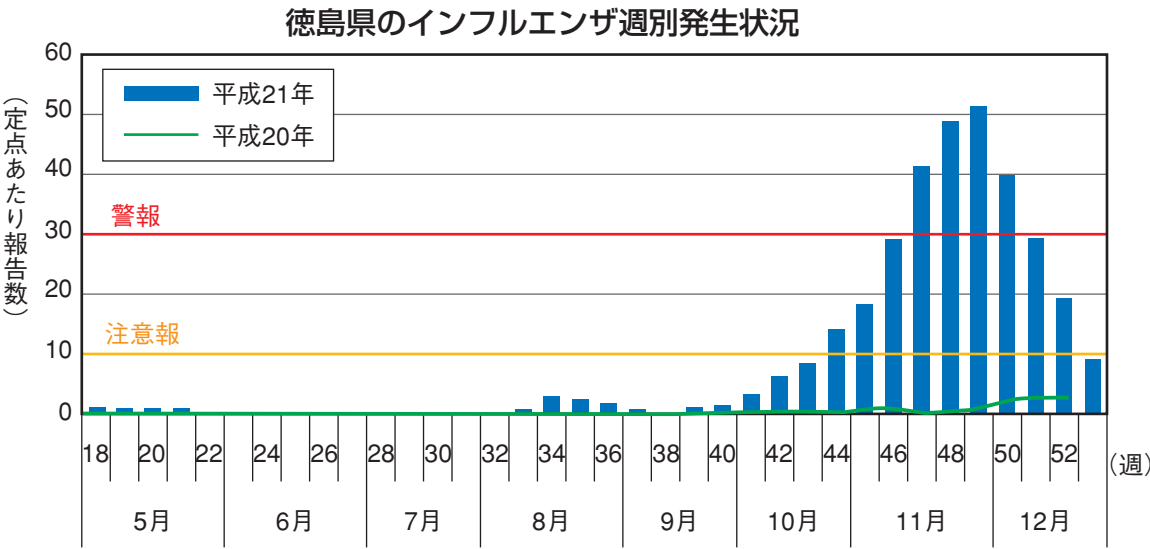
ウイルス遺伝子の抽出

## 当センターで実施している 新型インフルエンザ遺伝子検査の流れを簡単にご紹介します。



PCR検査

### 3. インフルエンザ患者報告状況



新型インフルエンザの発生が明らかとなった4月末からの新型および季節性インフルエンザ患者報告数について示しています。県内では例年患者報告がほとんど見られない8月にも報告がありましたが大きな流行となりませんでした。しかし、10月以降、報告数が急増し、10月末には注意報レベルを、11月中旬には警報レベルを超え、11月下旬にはピークとなりました。その後、患者報告数も次第に減少しました。例年冬季はインフルエンザが流行する時期にあたりますので、しばらくはインフルエンザの動向に注意が必要です。

## 4. 予防

新型インフルエンザの予防方法としては、季節性インフルエンザと同様にワクチン接種が第一に挙げられますが、日常生活において実践出来ることもいろいろあります。残念ながらインフルエンザの感染を完全に防ぐことは困難ですが、出来ることから実行することが大切です。

- ① 外から帰ったときは、うがいを励行しましょう。
- ② 時計やアクセサリーを外し、流水と石鹸で丁寧な手洗いを励行しましょう。洗った後は清潔なタオル等で水分を充分ふき取りましょう。
- ③ 十分な睡眠とバランス良い食事で、体力や免疫力を高めるなど体調管理に努めましょう。
- ④ 流行時にはできるだけ不必要な外出を控え、外出する場合はマスクを付けましょう。



## 5. 感染拡大防止

流行を最小限に抑えるために、一人一人が「かからない」、「うつさない」ことを心がけることが大切です。

- ① 咳エチケットを守りましょう。
  - ・ 咳やくしゃみなどの症状があるときは、正しくマスクを着用し周囲の人からなるべく離れる。
  - ・ 咳やくしゃみをするときは、ティッシュ等で口と鼻を覆い他の人から顔をそらせる。
  - ・ 使用したティッシュは他の人が触れることの無いようにゴミ箱に捨てる。
- ② インフルエンザウイルスはアルコール消毒液が効果的です。手洗いと併せて活用しましょう。

## 保健環境センター試験研究評価制度

保健環境センターにおける試験研究について、内部評価及び外部評価等を行うことにより、県民、県内事業者等のニーズを的確に反映した効率的かつ効果的な試験研究を行い、もって本県の保健衛生の向上及び環境の保全に資することを目的とします。

### 学 術 会 議

学術会議は、当所の職員で組織し、年2回開催しています。

1回目は、新規研究テーマについて審査を行い、予算化します。2回目は、継続中及び終了した研究テーマについて研究発表会を開催し、研究の進捗状況及び研究成果等について評価します。

### 試験研究内部評価委員会（内部評価）

内部評価委員会は県民環境部環境総局及び保健福祉部の職員で構成し、年1回開催しています。

継続中及び終了した研究テーマについて、中間評価及び事後評価を行い、今後の研究計画や研究成果の普及方法等について評価をします。

### 試験研究評価委員会（外部評価）

外部評価委員会は大学教授など6名の学識経験者等で構成し、年2回開催しています。

新規研究テーマに対する事前評価及び継続中及び終了した研究テーマに対する中間評価及び事後評価を行います。

委員は、評価項目（必要性・目標・研究内容・成果・手法）について各項目5点満点で採点し評価します。その評価結果から、研究テーマの採択・不採択、継続・休止あるいは研究内容の修正などの措置を講ずることになっています。

### 研究成果の公表

研究成果については保健環境センター年報に掲載しており、試験研究評価（外部評価）の評価概要とともにホームページにも公表しています。是非一度ご覧下さい。

## 環境教育・施設見学

保健環境センターでは、環境教育をはじめ保健環境問題の普及・啓発・研修等の事業を行っています。

### 環境教育

環境総局環境管理課や徳島県教育委員会などと協力して、環境教育を積極的にすすめております。特に、小学生を対象に施設見学・体験学習の場を提供したり、講師派遣による特別授業等を行っています。

平成21年度に実施した環境教育

学 校 名	授 業 の 内 容
徳島市立加茂名南小学校	とくしまのあおぞら発見学習
鳴門市第一小学校	みんなで水質汚濁を考える教室
松茂町立喜来小学校	生活排水対策の特別授業
徳島市立城東小学校	生活排水対策の特別授業



移動測定車「しらすぎたいき君」の説明

### 研修、施設見学

大学生等のインターンシップや技術研修生の受け入れをはじめ、クラスやグループ単位での施設見学等も行ってまいります。

平成21年度に実施した研修・施設見学

学 校 ・ グ ル ー プ 名	内 容
徳島文理大学薬学部1年生	早期体験学習の一環で施設見学
徳島大学薬学部1年生	早期体験学習の一環で施設見学
徳島文理大学、四国大学、徳島大学の管理栄養士養成課程4年生	施設見学及び事業説明
徳島大学医学部医学科3年生	社会医学実習



### お知らせ

当センターでは、環境問題の啓発活動の一環として、簡易な実験をとおして体験学習や、施設見学などの受入体制を整えております。人数に制限はありますが、クラス単位又はグループ単位でお申し込みください。

詳しくは、  
総務企画担当まで  
ご相談ください。

### 保健環境センターニュース No.20

平成22年3月発行

お問い合わせ先 徳島県保健環境センター(総務企画担当)

〒770-0941 徳島市万代町5丁目71番地

TEL: (088) 625-7751 FAX: (088) 625-1732

URL: <http://www.pref.tokushima.jp>

e-mail: [hokenkankyousenta@pref.tokushima.lg.jp](mailto:hokenkankyousenta@pref.tokushima.lg.jp)

